2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
教育学部　子ども発達学科	准教授	新實 広記
最終学歴	学　位	専門分野
愛知教育大学大学院教育学研究科 芸術教育専攻修士課程	学術	図画工作・造形

Ⅰ　教育活動

〇理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」をコンセプトに、学生一人ひとりがプロジェクトに挑戦できる教育。

（目標）

昨年度は、コロナ禍のため近隣の保育園、幼稚園での実践的な学びにつなげることが困難であったが今年度は、大学での学びと現場での学びを効果的に構成し学生の実践力を育てていくことが目標である。 連携する教育現場、 保育現場を地域に増やしながら学生が主体的かつ実践的に学べる教育プログラムの整備に努力したい。愛知東邦大学の学生が地域に信頼される学生になり、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を目指し教育活動を行いたい。

（方針）

小学校教諭 ・ 保育者（幼稚園教諭及び保育士）養成課程において、学生が質の高い教育、保育を行うために、養成段階で苦手意識を克服し、教育・保育実践力を自ら育てていくことができる人材を育成する。

（計画）

・コロナ禍の中で、学生の受け入れが難しいことが予想されるが、丁寧に受け入れ先に説明をして協力していただける教育、保育現場を増やしていく。

・授業で学んだ内容を体験的に理解できるように、学内外において学生が子どもと触れ合う機会を設け実践的な学びが得られるようにする。

〇担当科目（前期・後期）

（前期）

保育内容（造形表現）、図画工作教育法、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、
サービス・ラーニング実習Ⅰ

（後期）

幼児と造形表現、図画工作、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、サービス・ラーニング実習Ⅱ、
教育実習Ⅰ（幼稚園）、卒業研究

〇教育方法の実践

今年度は、コロナ禍の影響も少なくなり、各演習やサービス・ラーニング実習では、近隣の幼稚園などの教育現場と連携して、学生に実践的な学びの機会を提供することができた。そのため、リアルな教育、保育現場の様子や子どもたちとの関わり合いができた。また、造形・図画工作の授業では、お互いが制作した作品を共有できる機会が多くなり、学生同士のコミュケーションを取る時間を大切に行なった。これまで、課題となっていた、予習、復習もチームズを取り入れることで、指示や確

認が明確になり改善が見られた。

教育学部では、表現力豊かな保育者、教員養成を目指しているが、大学近隣のうりんこ劇団と連携して、観劇会も行いプロの役者から表現することの素晴らしさをリアルに体験する機会を学生が得ることもできた。

オンライン授業での経験も生かしながら、対面授業だからこそできる授業内容があることを改めて意識して、今後も授業内容をより良く工夫していきたい。

○作成した教科書・教材

・新實広記、柿原聖治、白井克尚、山本かほる、堀健治、虎岩朋加
「サービス・ラーニングハンドブック　第７版」発行　愛知東邦大学　教育学部　2023(令和 5)年 3 月
・新實広記、柿原聖治、白井克尚、山本かほる、堀健治、虎岩朋加
「サービス・ラーニングハンドブック　第７版」発行　愛知東邦大学　教育学部　2022(令和 4)年 3 月
・新實広記、柿原聖治、矢内淑子、白井克尚、水野順子、梶浦恭子
「サービス・ラーニングハンドブック　第６版」発行　愛知東邦大学　教育学部　2021(令和 3)年 3 月
・新實広記、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック　第５版」発行　愛知東邦大学　教育学部　2020(令和 2)年 3 月
・新實広記、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック　第４版」発行　愛知東邦大学　教育学部　2019(平成 31)年 3 月
・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック　第４版」発行　愛知東邦大学教育学部　2018(平成 30)年 3 月
・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック　第３版」発行　愛知東邦大学教育学部　2017(平成 29)年 3 月
・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック　第２版」発行　愛知東邦大学教育学部　2016(平成 28)年 3 月
・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック　第１版」発行　愛知東邦大学　教育学部　2015(平成 27)年 3 月

○自己評価

図画工作、造形の授業では、苦手意識のある学生も一定数いるが、授業後の学生レポートや、制作に取り組む態度から、学生一人ひとりの苦手意識を克服できるような授業づくりを行うことができた。また、保育･教育現場での実践力を身につけられるように、地域の幼稚園や保育園、小学校と連携して、現場の先生方や子どもたちと触れ合いながら体験的に学べる環境づくりに力を入れることもできた。さらに、ゲストスピーカーも積極的に招聘して、専門分野で活躍する方から学生が刺激を受ける機会を増やした。今後も学生が継続して、リアルな学びができるように地域の教育・保育現場とも連携していきたい。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

・保育者、幼稚園・小学校教諭における子どもの造形遊びと図画工作の指導法（教材・題材）研究
・美術空間の創造

○目標・計画

（目標）

「想像力」と「創造力」は、人が人として生きていく上でとても大切なものである。今年度は、行政や教育現場、企業と連携しながら、造形ワークショップ、展覧会を開催し子ども達やその保護者、教育現場教員に体験的に美術教育の意義を理解してもらう機会を増やしたい。また、幼・保・小・中の教育現場へ授業プログラムを提供できるように、研修会の開催や指導実践集の作成にも取り組んでいきたい。

（計画）

・日本美術教育学会大会誌編集委員を継続して行い、様々な研究の情報共有に勤めていく。

・小学校教諭、 保育者養成における表現関係科目の造形に関する教材、 題材、 技法、造形表現活動の意義について研究を深める。

・美術作家の作品展示と鑑賞教室、アーティストトークで学校の校舎を美術館にする「学校美術館」を継続して実施する。

・彫刻表現の可能性を探る作品制作と展示を行う。

〇2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・ 樋口一成 新實広記 他『小学校図画工作の基礎　造形的な見方や考え方を働かせる学び』共著　萌文書林　第３章 版画　4.版を用いた表現④−スチレン版画 pp76-77　第５章デザイン・映像メディア表現 12.モダンテクニックとその活用 pp128-129　 13.　モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp130-131 第６章 18 モザイクで表す pp186-187 2020(令和 2 年) 1 月

・新野貴則　福岡知子　新實広記 他　『図画工作科教育法　明日の小学校教諭を目指して子供の資質・能力を育む』共著　萌文書林　第４章 図画工作科の実践事例 14.中学年　立体に表す活動②pp158-161　図画工作科で用いる材料や技法　4.木で表す（木材の加工法と用具）pp236-237 8.版で表す pp241 10.様々な接着剤、接着テープの性質 pp244-pp245 2019(令和元年)8 月

・『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』共著第５章 幼稚園・小学校におけるサービス・ラーニング（新實 広記）唯学書房 2019(平成 31 年)2 月

・樋口一成 新實広記 他　『幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材』共著　萌文書林　第３章幼児の造形教育の教材−材料や技法の基礎理解「版画①」版の種類や用具の使い方 pp. 68-69 第 4 章幼児造形教育への実践−大学での実技体験や教育現場での実践例「コラージュ」pp. 130-131、「ゴム版をつくろう」pp. 156-157、「木を切る・打つことからの展開」pp. 166-167、「共同での制作−ものづくり交流の教材実践」pp. 200-201　2018(平成 30)年 11 月

・大橋功 松岡宏明 新實広記 他 『美術教育概論（新訂版)』共著 日本文教出版 第Ⅱ部 第７章 幼児造形表現指導の計画と実践 pp84-89 2018(平成 30)年 10 月

・辻泰秀 新實広記 他　『造形教育の手法　えがく・つくる・みる』共著　萌文書林　第３章　「版画」スチレン版画 pp. 66-67 第 5 章「デザイン・映像メディア表現」　モダンテクニックとその活用 pp. 118-119 モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp120-121 モザイクで表す pp170-171　2017（平成 28)年 3 月

（学術論文）

・古市久子、新實広記、矢内淑子、伊藤数馬、「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 III　−造形表現の授業の分析を通して −東邦学誌 第 46 巻第 1 号 2017(平成 29)年 6 月 10 日発刊

・辻泰秀、早矢仕晶子、新實広記、江村和彦「造形教育における美術鑑賞の指導法（2)」−「学校美術館」でのギャラリー・トークの方法−岐阜大学教育学部研究報告 人文科学　第65巻　第2号　2017(平成29)年3月
・古市久子、矢内淑子、伊藤数馬、新實広記「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法II　−授業実践を通して −」東邦学誌 第45巻第2号 2016(平成28)年12月発行
・古市久子、矢内淑子、新實広記、伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法Ⅰ　−保育実践教科書を分析する−」東邦学誌 第44巻第2号2015(平成27)年12月発行

(学会発表)

・パネリスト：新實広記、山本富章、阿部多偽、　モデレーター：天野一夫　シンポジウム「表現としての豊田」　主催：豊田市文化振興課　2022（令和4年）年12月17日（土）14:00-16:00
・講演　「豊田市民芸館蔵のガラス工芸」2022年7月14:00〜16:00
豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
・パネリスト：新實広記、稲垣誠、水谷誠孝　モデレーター：山極裕史　「aacaサロン まちとのインターフェイス・人とのインターフェイス」　建築美術工芸協会 2020（令和2年）年12月18日（金）17:00-18:30
・新實広記、水谷誠孝　平成30年度全国保育士養成セミナー 中部ブロック独自企画
ワークショップ「 さまざまな素材を写して遊ぶ版画 」
一般社団法人全国保育士養成協議会主催　2018(平成30)年9月16日
・山田唯仁、辻泰秀、新實広記「学校美術館」鑑賞教育プロジェクト２−作品・アーティスト・子どもをつなぐ活動−　美術科教育学会 2017(平成29)年3月28日
・新實広記「世界子ども絵画展の可能性」ものづくり教育会議 日本美術教育学会東海地区研究会ポスター発表　2015(平成27)年12月
・新實広記「大学・学校・園・美術館との連携による学校美術館と造形ワークショップの実践」2015(平成27)年11月　全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
・新實広記　公開授業II アーティストによる造形ワークショップ2015(平成27)年11月　全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
・新實広記　公開授業Ⅰ「学校美術館」アーティストによるギャラリー・トーク　2015(平成27)年11月　全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟

(特許)

なし

(その他)

＜報告書＞

・「てのことば−あそび、つくる、育ちの日々−」ものづくり教育会議 vol.7 2022(令和4)年7月
・「てのことば−あそび、つくる、育ちの日々−」ものづくり教育会議 vol.6 2021(令和3)年7月
・「おてらmeetsフェスティバル アール・ブリュット展ギャラリートーク」全美協造形教育フォーラム2019報告　大学美術教育研究　全国大学造形美術教育教員養成協議会　第19号 2021(令和3)年3月
・「てのことば−あそび、つくる、育ちの日々−」ものづくり教育会議 vol.5 2020(令和２)年7月
・「てのことば−あそび、つくる、育ちの日々−」ものづくり教育会議 vol.4 2019(平成31)年7月

・「てのことば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol.3 2018(平成29)年7月
・「てのことば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol.2 2017(平成29)年7月
・今津孝次郎、新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚「教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み」　東邦学誌 第44巻第1号 2015(平成27)年6月
・新實広記「ガラス廃棄瓶を使用した教材研究―小学生・幼児を対象とした造形ワークショップの取り組み―」　ものづくり教育研究 NO.5 ものづくり教育会議 2014(平成26)年3月
・新實広記「保育者養成校における地域連携事業―小学生・幼児を対象とした造形ワークショップの取り組み―」ものづくり教育研究 NO.4 ものづくり教育会議 2013(平成25)年3月
・新實広記「大人と子どもが共に学ぶワークショップ」ものづくり教育研究NO.3　ものづくり教育会議 2012(平成24)年3月

＜主要作品発表＞

・新實広記　「ポケモン×工芸　美と技の大発見」2023年3月　国立工芸館　/金沢・石川
・新實広記　「国際ガラス年 2022 ガラス展」2022年12月　東京大学 安田講堂/本郷・東京
・新實広記　「After Prize」2022年12月 豊田市美術館ギャラリー/愛知・豊田
・新實広記　「豊田市民芸館コレクション展　特別展示」2022年7月
豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
・新實広記　「itoten」グループ展 2022年3月 横浜赤れんが倉庫館1号館/横浜・神奈川
・新實広記　「芸術の隣人たちー豊田気鋭のアーティスト展ー」2022年2月
豊田市民ギャラリー/愛知・豊田
・新實広記　「揺籃の時間」2021年6月
Cassina ixc. DELL’ARTE Art Gallery/青山・東京
・新實広記　「Vessels」個展 2021年2月 白要堂 /愛知・豊田・足助
・新實広記　「itoten」グループ展 2020年11月
京都文化博物館別館ホール/京都・中京区
・新實広記　「Vessel」コミッションワーク 屋内彫刻 2020年5月
HOTEL OREIN　静岡/葵区
・新實広記　「itoten」グループ展 2019年11月
横浜赤れんが倉庫館1号館/横浜・神奈川
・新實広記　「次代を担うとよたのアーティストたち展」グループ展2019年8月
豊田市民文化会館 展示室A
・新實広記　「Vessel」コミッションワーク 野外彫刻 2019年1月
PARK FRONT香椎照葉 /東区・福岡
・新實広記　「itoten」グループ展　2018年10月代官山ヒルサイドテラス/代官山・東京
・新實広記　「第7回 現代ガラス展in山陽小野田」土屋良雄審査員賞 2018年7月
山口県立萩美術館 / 山口
・新實広記　「VESSEL-光のうつわ-」個展　2018年7月
豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
・新實広記　「光の図形」個展2018 4月 masayoshi suzuki gallery　/ 岡崎・愛知
・新實広記　「十人十色 ガラスの展覧会Vol.5～伊賀秋色～ イートーテン」
2017年11月 史跡旧崇広堂 /伊賀市
・新實広記　「十人十色ガラスの展覧会　～黒壁秋色～　イートーテン」
2017年10月　慶雲館 / 長浜市

・新實広記　「新實広記展-名づけられた光-」個展 2017 年 5 月
Cassina ixc. DELL’ARTE Art Gallery/青山・東京
・新實広記　「BOX 展-繋ぐ」日本建築美術工芸協会　優秀賞　2017 年 4 月 建築会館　（東京）
・新實広記　「現代ガラスの表現展」グループ企画展　2016(平成 28)年 12 月　大一美術館 (愛知)
・新實広記　「第３回街に飛び出す作品展」2016(平成 28)年 10 月 AACA 建築会館（東京）
・新實広記　「とよたルミアール・プロジェクト 新實広記展」個展　企画展
2016(平成 28)年 8 月 豊田市役所東庁舎展示スペース（愛知）
・新實広記　「feeling in glass　感じとるかたち」グループ企画展 2016（平成 28)年 4 月
富山市ガラス美術館　（富山）
・新實広記　「街なかミュゼ」中野哲学堂集合住宅コンペ野外彫刻採用　2016(平成 28)年 1 月
AACA 建築会館（東京）
・新實広記　「大手町 JX タワーホトリア広場野外彫刻設置」2015(平成 27)年 12 月
大手町 JX タワー（ホトリア広場）
・新實広記　「農村舞台アートプロジェクト」個展
平成 26 年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチ　2014(平成 26)年 8 月
（加塩町加塩神社農村舞台）主催／豊田市・豊田市教育委員会（財）豊田市文化振興財団
・新實広記　「時の記憶　-美術展-」グループ展 2014(平成 26)年 2 月
知立市文化会館パティオ池鯉鮒
・新實広記　「ヒカリノカケラ」個展 2013(平成 25)年 5 月スペース AQUA
・新實広記　「Vessel」個展　企画展 2013(平成 25)年 4 月 Masayoshi Suzuki gallery
・新實広記　「ARTISTS FILE 04」グループ展 2012(平成 24)年 8 月 Masayoshi Suzuki gallery

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）
なし

○所属学会
日本美術教育学会（大会編集委員）、大学美術教育学会、日本保育学会、日本建築美術工芸協会、全国大学造形美術教育教員養成協議会(役員)　、ものづくり教育会議（会長）

○自己評価
これまで、行政や教育現場、企業と連携しながら、さまざまな造形ワークショプ、展覧会を開催し子ども達やその保護者、教育現場教員に体験的に美術教育の意義を伝えてきた。本年度は、コロナの影響はあったものの、教育現場でのワークショップなども少しずつ行うことができた。学会も対面で行うことができ、研究分野における議論や情報交換を多くの方と行い研究を深めることができた。
また、愛知県私立幼稚園連盟の教諭との研修会も今年度は対面で行うことができ、現場教員に日頃研究している専門的な内容を伝えることができた。さらに、それらの研修や講習では、アンケート調査などを実施して、教育、保育現場の課題を確認することができた。
　さらに、これまで実践してきた学校美術館も、コロナ禍のため様々な制約はあったものの、今年度は再開することができた。この活動は、生活圏内に美術館がない山間部の子どもたちや授業時間にゆとりがなく美術館に行く事ができない子どもたちのために、彫刻や絵画作品を生活空間の校舎内に展示し制作者のギャラリートークや造形ワークッショップを行うものである。活動の結果、子どもた

ちに作品を直に感じてもらいギャラリートークを通して、理解を深めてもらうことができた。

また、本年度も様々な展覧会、シンポジウムに参加することができた。子どもから大人までの多くの人々に作品鑑賞をしていただき、今後も「美術空間の創造」というテーマで、「芸術や美術」が人に対してどのような役割があるのかを考察していきたい。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

配属された業務を的確に迅速に行って円滑な運営に努めることはもとより、問題解決のための最善の方法を教職員と共に考え、学生にも意見を聞きながら改善していきたい。また、新たな可能性を常に考え、イノベーションを試みていきたい。

（計画）

学生委員会委員長として、学生の学校生活がより良くなるように学校環境を整え、新たな学生支援も試みていきたい。新たな提案を行う時は一時的な提案ではなく「持続できる」仕組みを考え、活動内容を広げていく工夫をしていきたい。学生会の運営や 3 年ぶりの大学祭の開催に向けて、学生委員会メンバーと共に学生をサポートしていきたい。

○学内委員等

幼小教職課程・保育士養成部会、学生委員会（委員長）、高大接続プログラムワーキング、
教育学部執行部

○自己評価

各委員会、ワーキングにおいて積極的にアイデアを出し、新たな仕組みづくりを行うことができた。特に、学生委員会では、委員長として委員の教職員メンバーと議論を深めながら、イノベーションや課題解決に取り組むことができた。しかしながら、委員会活動をする中で、様々な課題も浮かび上がったため、継続して他の委員会とも協力しながら課題解決を進めていきたい。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

自らの専門である造形分野を生かして、地域に貢献できるように勤めたい。また、教育現場や社会における多様な課題に対して積極的に取り組んでいきたい。

（計画）

地域の子どもたちの教育活動に貢献するために、様々なワークショップやイベントを計画していきたい。学外においては教育現場の課題や要望を現場教員、保育者と共有しながら、子どもの造形ワークショップなどを企画、運営していく。また、これらの取り組みを社会に発信し、愛知東邦大学と地域との連携をさらに深めていきたい。

○学会活動等

・ものづくり教育会議研究会会長
・日本美術教育学会大会編集委員
・全国大学造形美術教育教員養成協議会役員

○地域連携・社会貢献等

・愛知県私立幼稚園連盟２年目教員研修会 講師　2022(令和 4)年 8 月 27 日

・「津島市立高台寺小学校学校美術館プロジェクト」

作品展示・鑑賞教室・アーティストトーク　講師　2022(令和 4)年 12 月 津島市立高台寺小学校学

・講演会企画　ものづくり教育会議「絵本作家 市原淳に聞いてみよう！」

講師：市原淳　絵本作家　2022 年 9 月 10 日（土）14:00-15:00

・シンポジウム「表現としての豊田」パネリスト

主催：豊田市文化振興課　2022（令和 4 年）年 12 月 17 日（土）14:00-16:00

・講演「豊田市民芸館蔵のガラス工芸」講演会講師

2022 年 7 月 14:00～16:00 豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知

○自己評価

学会活動においては、大会編集委員として様々な研究の成果を一つの冊子にまとめ、広く研究の成果を示すことに貢献できた。また、ものづくり教育会議研究会グループでは、会長として講演会の企画やワークショップの企画を行い、現場教員や大学教員と意見交換や情報交換を行い研究を深めることができた。

愛知県私立幼稚園連盟の研修会、美術館などにおけるシンポジウムパネリスト、講演会などにおいて、日頃の研究成果を伝え、アート、美術への興味関心を深めていただくような活動ができた。また、大学周辺の子どもたちに対して、ワークショップの提供などを学生と共に行うことができた。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

配属された仕事はもとより、積極的に研究活動、大学運営に関わり、自らのスキルを増やして、学生、教職員から、真に信頼して事を任せられる人材になれる様に今後も努めたい。

Ⅵ　総括

教育活動においては、毎年、教育現場との連携を重視して、学生がリアルに教育現場を体験し主体的に取り組める教授方法、環境整備を実行してきたが、近隣の幼稚園、学内の保育園で、学生と造形ワークショップの実施やサービス・ラーニングを実施することができた。また、「劇団うりんこ観劇会」「愛知県児童総合センター研修会」を企画するなど、積極的にゲストスピーカーを活用し、魅力的な授業づくりを心がけることができた。

研究活動では、コロナ禍の影響はあったものの、少しずつ教育現場に訪れることや、子どもや保育者と触れ合いながら、共に研究活動もできるようになってきた。今後は、現場教員、保育者と共に意見交換をしながら、様々な課題を発見して、研究の実践方法やその工夫を考えていきたい。

各委員会では、共に働く教職員の助けを得て迅速かつ的確に業務を行うことができた。学生委員会委員長として今年度も大学業務に取り組んだことで、学生生活の様々な課題を知る事ができた。今後もそれらの課題と向き合い、学生目線になり丁寧な対応を心がけながら解決していきたい。

今後も、共に働く教職員に対して「感謝」の気持ちを大切にして、学生のより良い教育環境の整備と大学教育全体の発展へとつなげていくことを目標に努力していきたい。

以　上